

立正大学博物館年報

15

平成 28 (2016) 年度

立正大学博物館

序

立正大学博物館が開館したのは2002年4月1日で、今年度でちょうど15周年を迎えることになり、それを記念して2016年10月13日（木）から2017年1月16日（月）まで「開館15周年記念展示 立正大学博物館15年のあゆみ」を開催した。展示の内容をめぐって、初代館長坂詰秀一先生からご教授いただいたのは僥倖であったが、カタログの誤りをご指摘いただいたことは汗顔の至りであった。わずかに15年の歳月であるが、人の記憶は不確かになり、忘却してしまうことの多さに驚いた。こんなことがあると、小さなことでも記録し、将来の歴史叙述に役立てねばと思うものの、実行したことはいまだかつてない。

今年度の企画展は、10月1日（土）から29日（土）まで開催した「第11回企画展 小笠原の宝石サンゴ展」で、地球環境科学部岩崎望教授のご指導のもと、久しぶりに自然科学分野の展示をおこなうことができた。もっとも、サンゴは、大自然の賜物ではあるが、その美をめぐるのは人間で、ときには欲望のターゲットにさえなる。自然と人間の織り成す文化が、いままでにない魅力的な展示を生み出し、多くの人が楽しめたことは大きな成果であった。

特別展は、11月28日（月）から12月22日（木）まで開催した「第11回特別展 横穴墓」で、前館長池上悟副学長の長年の研究成果を凝縮した展示が実現できた。古墳からみて脇役である横穴墓にスポットをあて、古墳時代の社会を照射しただけではなく、横穴墓に取りつかれた男たちの近代考古学史にも新たな一石を投じることができた。内容の充実度に比して、開催期間が短かったのは残念であるが、見ることでできなかった人の渇きを展示図録が癒してくれるだろう。

もちろん、立正大学博物館の活動は、展示活動に留まるものではない。その具体的な内容は、この年報に詳記したところであり、日々地道な努力を重ねていることがおわかりいただけるであろう。日常的な研究の成果を紹介するために、前号から紀要的な内容を盛り込んでいるが、今回もその方向性を維持した。多くの方の参考になれば幸いである。

平成29年4月

立正大学博物館館長 時枝 務

目 次

序	II. 事業報告…………… (7)
目次	(1) 開館日数・入館者数
I. 博物館の概要…………… (2)	(2) 出版
(1) 組織と職員	(3) 資料活用
(2) 立正大学組織表	(4) 展示
(3) 立正大学博物館規定	(5) 教育普及
(4) 立正大学博物館細則	(6) 受贈資料
(5) 施設	III. 受贈図書目録 …… (14)

(1) 組織と職員

館長

專門職員

事務嘱託

時枝 務

大塚 美紗登

浅見幹雄

第1号委員

時枝 務

(博物館長・文学部教授)

大塚 美紗登

(專門職員・非常勤嘱託)

舟橋 哲

(法学部長・法学部教授)

川野良信

(地球環境科学部長・地球環境科学部教授)

小畑二郎（経済研究所長・経済学部教授）

梅澤啓一

(社会福祉研究所長・社会福祉学部教授)

安田治樹

(博物館関係学識経験者・仏教学部教授)

石山秀和

(文化史関係学識経験者・文学部准教授)

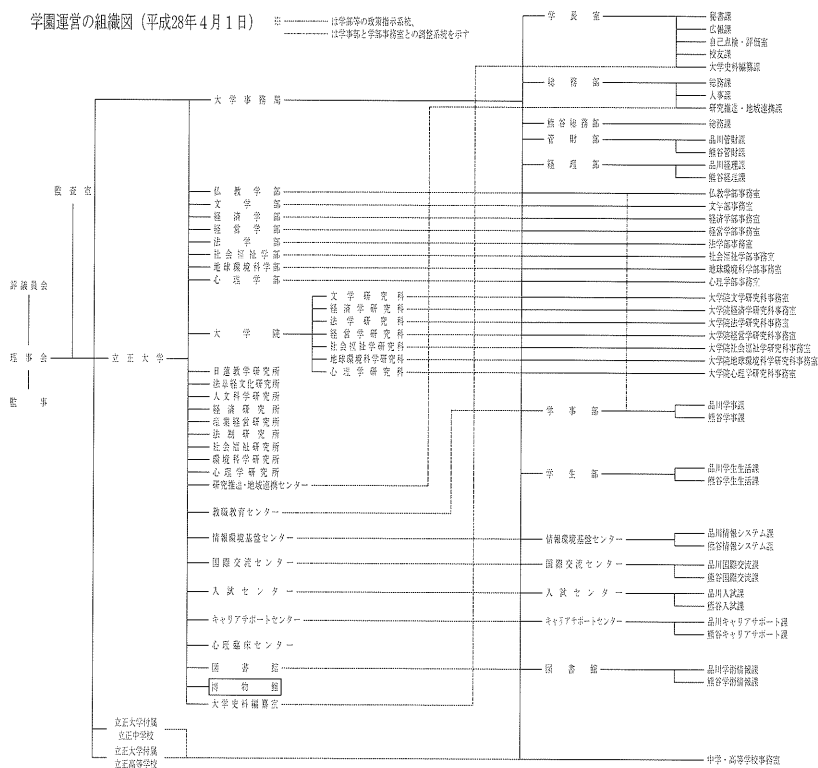
島津 弘

(自然誌関係学識経験者・地球環境科学部教授)

学園運営の組織図（平成28年4月1日）

128 日本経済新聞社編『日本経済新聞』は企業家の経営指示系統

-----は学事部と学務事務室との調整系統を示す



(3) 立正大学博物館規定

(設置)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という。)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という。)を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理および保管
- (2) 資料等の展示および公開
- (3) 調査研究活動
- (4) 調査研究成果の発表および出版
- (5) 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- (6) 講演会、講習会および特別展示会の開催
- (7) その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 5 館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。
- 3 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。
- 4 専門職員の任期は3年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

- (1) 館長
- (2) 専門職員
- (3) 学部長から2名
- (4) 研究所長から2名
- (5) 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- (6) 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- (7) 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第1項第3号乃至第6号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- (1) 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- (2) 博物館の管理運営に関する事項
- (3) 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
- (4) 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
- (5) 博物館の予算・決算に関する事項
- (6) その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。

2 前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第6条の規定による。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

平成28年2月24日改正、平成28年4月1日施行

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は所定の手続をとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式1）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。

(2) 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

(3) 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

(4) 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学

博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

(5) 第1項による利用許可を受けた者が、当該資料等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

(1) 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

(2) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業

(3) 学術研究

(4) 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書（様式3）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

4 第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項第1号、第2号および第4号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、

点数、期間等を寄贈申請書（様式 5）寄託申込書（様式 6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証（様式 7）・受託証（様式 8）を交付するものとする。

4 館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

（細則の改廃）

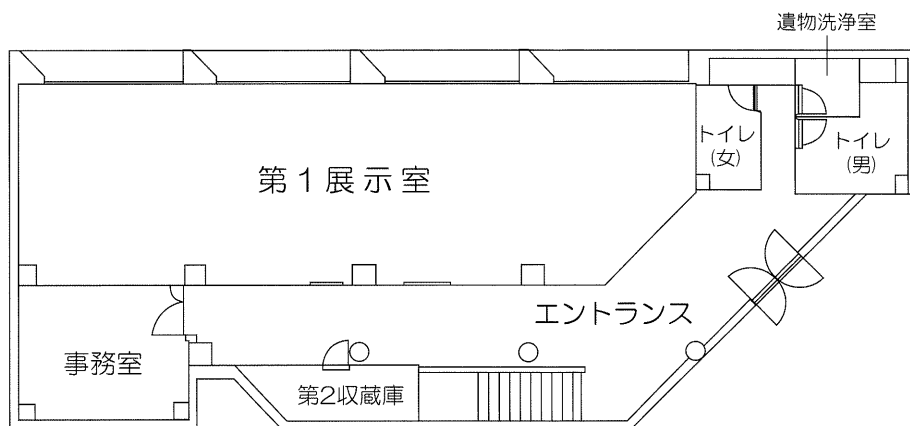
第 12 条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附 則

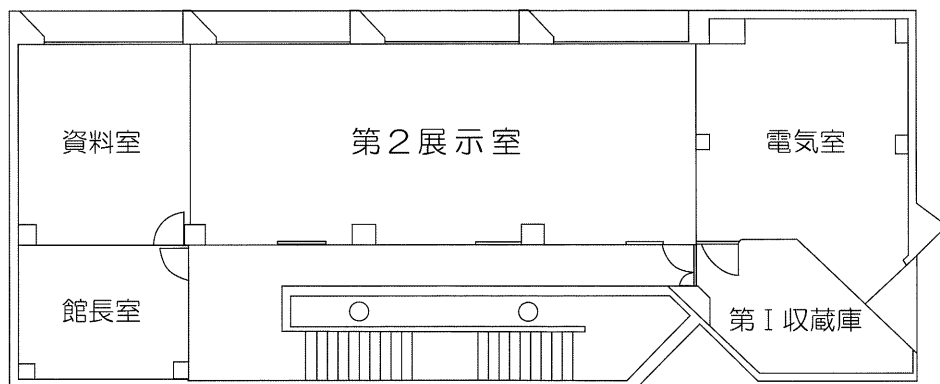
1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

2 この細則は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

この細則は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・376.8㎡
構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧
(1階)

第1展示室	93.88㎡
事務室	17.10㎡
第2収蔵庫	3.22㎡
トイレ	11.01㎡
遺物洗浄室	2.26㎡
エントランス	45.64㎡

(2階)

第2展示室	71.22㎡
館長室	16.98㎡
資料室	23.89㎡
第1収蔵庫	12.30㎡
電気室	39.00㎡

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(第2展示室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(館長室・資料室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ジプトーン

●電気設備

受電設備	6.6KV
変圧器設備	電灯ー100KVA 動力ー80KVA
照明設備	展示室ーハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備	各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備	CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備	P型1級5回線
消化設備	粉末消火器9台

●空調設備

空調機	空冷式、パッケージエアコン(個別)
-----	-------------------

●給排水設備

給水設備	市水道使用
給湯設備	貯湯式電気湯沸器

II. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成 28 年 4 月 1 日（金）から平成 29 年 3 月 31 日（金）の間、延 223 日開館し、総来館者数は 1392 名であった。内訳は、一般の方 548 名、本学学生 549 名、本学教職員 92 名である。以上の期間に熊谷キャンパスにおいてオープンキャンパスが 4 回行われた。その際の来館者数は 203 名であった。

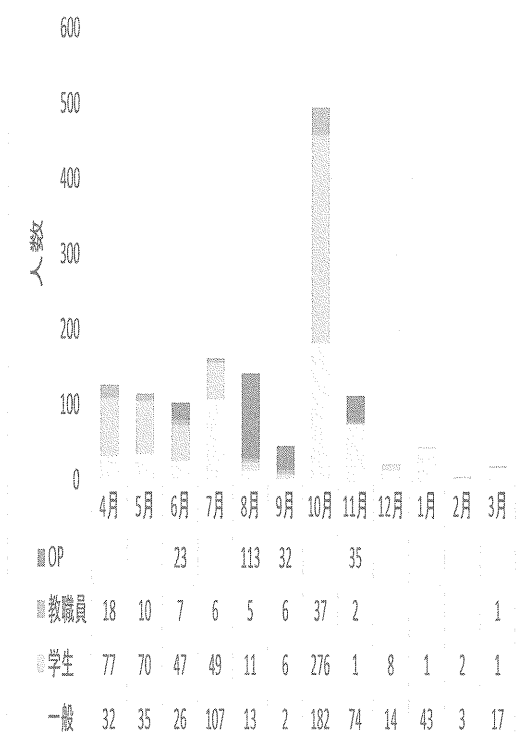


表 1 平成 28 年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・『立正大学博物館年報』14 号
- ・館報 万吉だより 23 号・24 号
- ・『KARA-TEPE2015- 立正大学ウズベキスタン学術調査速報』
- ・『立正大学博物館 15 年のあゆみ』
- ・第 11 回特別展図録『横穴墓』
- ・『館蔵資料 基礎文献 叢刊 第 6 輯 中和田横穴墓群』

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館等に貸出した。

貸出資料：新久窯跡 A 地点第 1・2 号窯跡写真

貸出機関：入間市博物館

貸出期間：平成 28 年 10 月 22 日（土）～12 月 4 日（日）

利用目的：入間市博物館主催によるアリットフェスタ 2016 特別展「みつけた！ふるさとのたからもの～文化財が語る地域の歴史～」開催につき展示するため。

貸出資料：壺形土器写真

貸出機関：大田区立郷土博物館

貸出期間：平成 29 年 1 月 7 日（土）～平成 29 年 3 月 5 日（日）

利用目的：平成 28 年度特別展「土器から見た大田区の弥生時代～久ヶ原遺跡発見、90 年～」の展示及び図録に掲載するため。

(4) 展示

1. 常設展示

- 第1展示室(1F) -

眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958～1980年にかけて文部省(現 文部科学省)の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

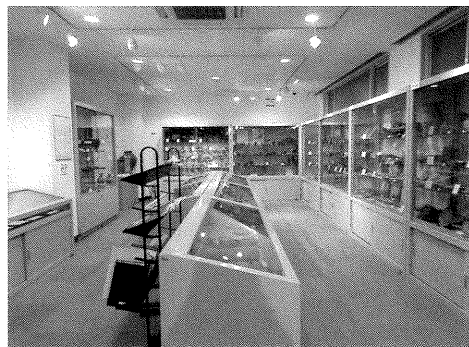
また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法(文化財保護法)によって定められた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代では、青森県前田野目窯跡、埼玉県新久窯跡・八坂前窯跡、広島県青水窯跡などの出土品を展示している。いずれも古代窯業生産の実態、土器の編年、瓦蜃の供給問題についての貴重な資料として知られている。

とくに、伝樞原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るものであり、極めて貴重な資料である。この伝樞原市出土鐘を復元した鐘が寄贈された。



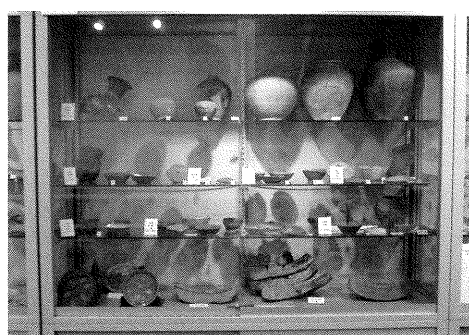
エントランス展示状況



第1展示室・東側展示状況



第1展示室・西側展示状況



新久窯跡展示状況

- 第2展示室 (2F) -

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒・平成18年没）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常春氏（元 本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

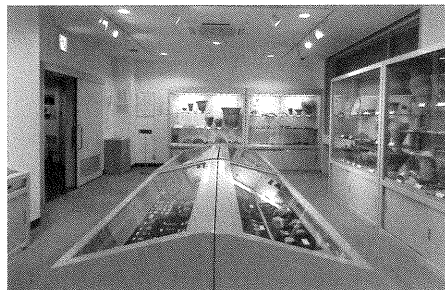
ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城 - カピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。



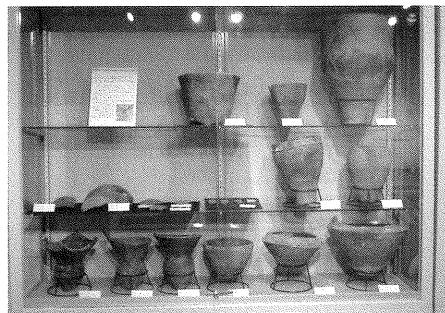
第2展示室・西側展示状況



第2展示室・東側展示状況



2階展示室入口・板碑展示状況



第2展示室・東側展示状況

2. 企画展示

第11回企画展『深海のサンタクロース－小笠原の宝石サンゴ』

◆期間：平成28年10月1日（土）～10月29日（土）

◆内容：地球環境科学部の小笠原調査に関する最新の研究成果を伝えるとともに、小笠原の自然について紹介した。展示にあたっては地球環境科学部の学生が主体となり企画・設営を行った。

第1部では「宝石サンゴの概要」と題して、造礁サンゴと宝石サンゴの違いや分布について実物を用いてまとめた。また、「宝石サンゴは動物」「海からの贈り物 珊瑚の物語」など映像資料を上映した。

第2部では「紛い物と本物」と題し、紛い物の珊瑚を使用したアクセサリーと本物の珊瑚を使用したアクセサリーを展示し、その見分け方や紛い物で使用された原材料について紹介した。

第3部では「珊瑚の文化」と題し、古書や引き札、着物下絵などに描かれた珊瑚と人びとの生活との関係について言及した。

第4部では「宝石サンゴの実物標本」と題し、小笠原及び鹿児島近海産サンゴを紹介した。また関連資料として貴重な、漁具に付着したまま成長した小笠原産のサンゴを展示した。

第5部では「小笠原珊瑚漁の歴史・密漁被害報告」と題し、実際に小笠原と高知県の珊瑚漁で使用されていた珊瑚網や、近年話題になっている小笠原近海における密漁被害について、密漁船で実際に使用されていた珊瑚網を展示した。

第6部では「小笠原の自然」と題し、小笠原の豊かな自然とその保全について、小笠原に生

息するウミガメや固有種の紹介とともに紹介した。

会期中の来館者数は495名である。

【関連事業①】

平成28年10月8日（土）に岩崎望教授（地球環境科学部）、川野良信教授（地球環境科学部）による講演会を行なわれた。講演会では宝石サンゴの文化誌や小笠原の地質と成り立ちについて言及された。

【関連事業②】

平成28年10月1日（土）に宝石サンゴを用いたアクセサリー製作教室を開催し、21名の方にご参加いただいた。鹿児島・沖縄産のサンゴをレジンに封入し、ストラップやペンダントなどの作品を製作した。



見学の様子



アクセサリー製作教室の様子

3. 特別展示

第11回特別展『横穴墓』

◆期間：平成28年11月28日（月）～12月22日（木）

◆内容：立正大学考古学研究室では、昭和48年の東京都日野市・梵天山横穴墓群をはじめ、長い年月にわたり関東各地の横穴墓を調査してきた。

今回の展示では学史上著名な吉見百穴横穴墓群（埼玉県比企郡吉見町）のほか、長柄横穴墓群、千代丸・力丸横穴墓群（千葉県長生郡長柄町）、さらには初公開の中和田横穴墓群（東京都多摩市）などを取り上げた。

第1部では、「横穴墓の概要」と題し、横穴墓の分布、関東地方における横穴墓の様相について明らかにした。

第2部では、「吉見百穴をめぐる人びと」と題し、吉見百穴横穴墓群の発掘調査に携わった当時東京大学大学院生の坪井正五郎と地元の有力者の根岸武香を取り上げた。関連資料として、坪井正五郎書「百穴」（立正大学考古学研究室蔵）、「武蔵國比企郡西吉見村百穴之記」（根岸友憲氏蔵）、モースが根岸家に残した水彩画（熊谷市指定有形文化財 根岸友憲氏蔵）などを展示した。

第3部では「長柄横穴墓群と千代丸・力丸横穴墓群」と題し、千葉県長生群長柄町に所在する2つの横穴墓群を紹介した。

長柄横穴墓群は36基の横穴墓が確認されており、千葉県を代表する古墳時代の墳墓として平成7（1995）年には国の史跡として指定されている。長柄横穴墓群をはじめ周辺地域に分布する横穴墓では、「高壇式」と呼ばれる玄室全体が2mほど高く造られた構造が特徴の横穴墓が多数確認されている。資料として18号墓出土のフラスコ形須恵器（長柄町教育委員会蔵）

を展示した。

長柄横穴墓群と隣接する千代丸・力丸横穴墓群では、37基の横穴墓が確認されており、そのうち高壇式横穴墓は31基と主体を占めている。横穴墓の展開範囲は分布状況から4つの支群に区分され、それぞれが異なった集団の墓域として造営されたものと考えられている。

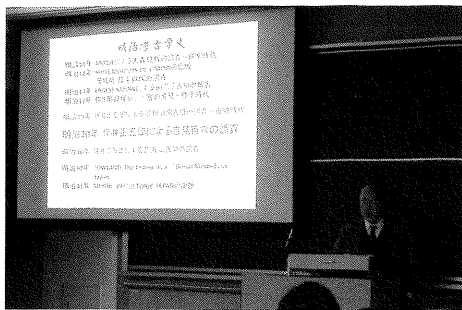
出土遺物は須恵器や玉類、鉄製品が多数出土しており、また線刻画も多数確認されています。とくに第25号墓からは特に多くの線刻画が確認されており、両側壁及び天井に馬や人物、弓、矢などが描かれている。しかし、描かれた時期は明確にはなっていない。資料として、第26号墓出土の須恵器、第17号墓出土の玉類・金銅製品を展示した。

第4部では「立正大学が調査した横穴墓群」と題し、本学の考古学研究室と横穴墓研究の関わりについてまとめた。本展では梵天山横穴墓群（東京都日野市）、坂西横穴墓群（東京都日野市）、熊ヶ谷横穴墓群（神奈川県横浜市）、熊ヶ谷東横穴墓群、中和田横穴墓群（東京都多摩市）を紹介した。

資料として本展初公開の中和田横穴墓群出土の須恵器4点（立正大学考古学研究室蔵）を展示した。

【関連事業】

平成29年1月30日（月）に、特別展の関連事業として池上悟教授（博物館担当副学長）と松本昌久氏（本学OB・長柄町教育委員会）による講演会が行われた。



第 11 回特別展「横穴墓」講演会の様子

4. 品川キャンパス展示

平成 27 年に引き続き、平成 28 年度も品川キャンパス 9 号館エントランスにて、博物館収蔵資料の紹介や、企画展・特別展の移動展を行った。

・「KARA-TEPE2015- 立正大学ウズベキスタン学術調査速報」展

◆期間：平成 28 年 6 月 22 日（水）～10 月 11 日（月）

◆内容：平成 27 年度に行なわれたウズベキスタン共和国に所在するカラ・テペ（Kara-Tepe）遺跡の調査概要と成果を写真パネルでまとめた。さらに、テルメズ考古博物館より学術研究のため寄贈された土器片も展示した。

・「立正大学博物館 15 年のあゆみ」展

◆期間：平成 28 年 10 月 12 日（水）～1 月 16 日（月）

◆内容：本展示では平成 28 年度に開館 15 周年を迎えた当博物館について、15 年間の活動の回顧と集成を収蔵資料、写真をもとに紹介した。

【関連事業③】

平成 28 年 11 月 12 日（土）には前館長 池上 悟博物館担当副学長による記念講演会を開催した。

・第 11 回特別展「横穴墓」移動展

◆期間：平成 28 年 1 月 16 日（月）～3 月 20 日（月）

◆内容：第 10 回特別展移動展として、内容を一部縮小し、解説パネルと瓦経、泥塔経、木製納札、紙製經典などの実物資料や経筒のレプリカを展示した。

（5）教育普及

1. 博物館館務実習

平成 28 年度の博物館学芸員課程の館務実習を、以下の日程で延 7 日間行なった。実習生は、文学部史学科 2 名、文学部文学科英語英米文学専攻コース 1 名、大学院文学研究科史学専攻 1 名の計 4 名であった

〔館務実習〕博物館及び、熊谷キャンパス内

◆8 月 5 日（金）

担当：田嶋和久先生（文学部社会学科准教授）
日本刀の概要について学び、模造刀を使用し、刀剣の取り扱いと手入れの実習を行った。

◆8 月 6 日（土）

担当：石山秀和先生（文学部史学科准教授）
古文書の取り扱い方や、調査方法を学び、実際に古文書と和本の調査カードを作成した。

◆8 月 8 日（月）

担当：時枝 務 先生（当館館長）
（午前）学芸員業務について講義を行なった。

池田奈緒子氏（当館非常勤学芸員）

（午後）資料整理と台帳作成を行なった。

◆ 8月9日（火）

担当：井上尚明先生（立正大学非常勤講師）
資料の取り扱いと梱包について学んだ。実際に
梱包材を作り、収蔵資料を梱包し、開梱する一
連の作業を行った。

◆ 8月10日（水）

担当：北沢俊幸先生（地球環境科学部環境シス
テム科 講師）
自然誌に関する実習を行なった。実際に熊谷
キャンパス内の建造物に使用されている石材の
観察を行なった。

◆ 8月11日（木）

担当：池田奈緒子氏（当館非常勤学芸員）
資料整理と台帳作成を行なった。



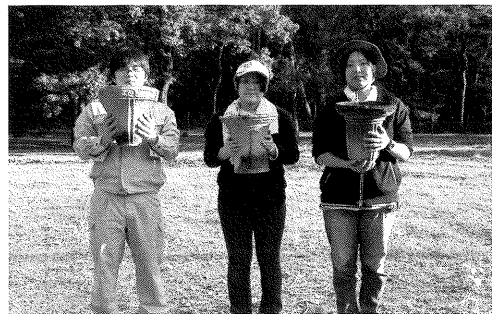
梱包実習の様子

◆ 8月12日（金）

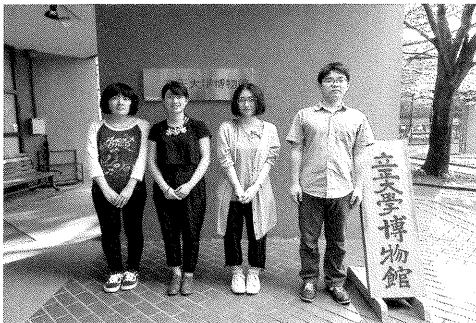
資料整理と台帳作成を行なった。

2. 土器焼成

土器焼きは例年、文学部史学科の「考古学実習
6」（4年生対象）の一環で行われている。今年
度も、平成28年11月4日（金）・5日（土）
の2日間、博物館が協力し、熊谷キャンパス敷
地内において行われた。参加者は、考古学専攻
3名で講師の竹花宏之先生の指導の下、野焼き
で土器を焼成した。



完成した土器と考古学専攻生



平成28年度 館務実習生

Ⅲ. 受贈図書目録 (2016 年 4 月～ 2017 年 3 月)

〈北海道〉

札幌大学

札幌大学学芸員課程年報 No. 14

東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館

・東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館 年報 7

〈青森県〉

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

- ・研究紀要 第 5 号
- ・山の縄文世界 ―中部高地の縄文時代―
- ・平成 28 年度秋季企画展図録「馬淵川流域の縄文時代」

八戸市教育委員会

- ・八戸市内遺跡発掘調査報告書 33 第 152 集
- ・熊野堂遺跡第 2 地点 第 153 集
- ・新井田古館遺跡第 30 地点 第 154 集
- ・年報 ―平成 27 年度― 第 5 号

青森市教育委員会

- ・市内遺跡 発掘調査報告書 25
- ・川原館遺跡・中道遺跡・東早稲田遺跡発掘調査報告書 25

〈岩手県〉

陸前高田市立博物館

- ・大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト 支援企画展

〈宮城県〉

東北学院大学博物館

- ・東北学院大学博物館年報 vol. 6
- ・東北学院大学博物館年報 vol. 7
- ・東北学院大学博物館 収蔵資料図録 vol. 1
- ・躍動する身体 よみがえる 60 年前の古写真帖 II
- ・二風谷への旅路 ―フィールドワーク入門 2015 調査報告書―

〈栃木県〉

國學院大學栃木短期大学

- ・大平山の石造物

〈群馬県〉

高崎市観音塚考古資料館

- ・平成 28 年度企画展 前方後円墳が消えると き ―再考、観音塚古墳の史的意義―

安中市学習の森ふるさと学習館

- ・築瀬二子塚古墳の世界

〈埼玉県〉

吉見町教育委員会 吉見町埋蔵文化財センタ

- ・町内遺跡 10 吉見町埋蔵文化財調査報告書第 15 集

- ・西吉見条里遺跡Ⅲ 県営ほ場整備事業西吉見南部地区に伴う発掘調査報告

- ・町内遺跡 11 下遺跡第 2 地点

毛呂山町教育委員会

- ・毛呂山町埋蔵文化財調査報告書 第 30 集

深谷市教育委員会

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 下郷遺跡Ⅸ ―北通り線建設工事に伴う発掘調査Ⅶ― 第 142 集

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 深谷城跡 (第 17 次) 第 143 集

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 深谷市内遺跡 XXI (火の見塚古墳) 第 144 集

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 電電遺跡 第 145 集

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第

146 集 深谷城跡（第 18 次）

・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第

147 集 深谷市内遺跡ⅩⅩⅡ

・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第

148 集 下郷遺跡Ⅹ

・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第

149 集 城北遺跡（第 2 次）

・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第

150 集 小前田古墳群（第 3 次）

富士見市立難波田城資料館

・平成 28 年度春季企画展 ほうきと竹かご
ー自然素材の生活用具ー

春日部市教育委員会文化財保護課

・『新編 図録 春日部市の歴史』

・埋蔵文化財発掘調査報告書 浜川戸遺跡 3 4
次地点 第 18 集

・埋蔵文化財発掘調査報告書 陣屋遺跡 9 次地
点 八木崎遺跡 6 次地点 貝の内遺跡 15 次地
点 第 19 集

春日部市郷土資料館

・第 54 回夏季展示

寄居町教育委員会

・寄居町文化財調査報告書『町内遺跡 18 ー寄
居廃寺跡（第 3・4 次） 第 35 集

埼玉県立歴史と民族の博物館

・紀要 第 10 号・11 号

・高麗郡 1300 年 ～物と語り～

・埼玉県立歴史と民族の博物館要覧 第 11 号

・特別展「徳川家康 ー語り継がれる天下人ー」

・巡り・廻りの民俗行事調査概報Ⅰ ー廻り地
蔵と回り念仏ー

さいたま文学館

・考古学と文学

・宮沢賢治 秩父を行く

・「平将門ー文学は史実を超えてー」

熊谷市立熊谷図書館

・『改訂版私たちの郷土 新編熊谷の歴史』

・熊谷染関連資料調査報告書Ⅲ

児玉郡神川町教育委員会

・神川町埋蔵文化財調査報告書 南塚原 11 号
墳 第 9 集

・神川町文化財マップ

富士見市立水子貝塚資料館

・平成 27 年度企画展『海と貝塚ー関東地方の
貝塚を探るー』

埼玉県立自然の博物館

・埼玉県立自然の博物館 ニュースレター 瀬
第 25 号

・埼玉県立自然の博物館 ニュースレター 瀬
第 26 号

・埼玉県立自然の博物館研究報告 第 10 号

美里町教育委員会

・美里町遺跡発掘調査報告書 第 25 集 『長坂
聖天塚古墳』

川越市立博物館

・収蔵文書目録（十四）

・第 43 回企画展 城下町川越の町人世界

・第 44 回企画展 蔵・倉・くら ー蔵造りと
川越の町並みをしようー

飯能市郷土館

・飯能市郷土館報 郷土館のプロフィール 第
12 号

・飯能市郷土館収蔵目録 7（原市場地区諸家文
書目録）

・高麗人集結 ー霊亀二年にやってきた開拓者
たちー

埼玉県立川の博物館

・紀要 第 16 号

・かわはく No. 54

・かわはく No. 55

・平成 28 年度特別展図録『都幾川・槻川』

三芳町教育委員会

- ・三芳町埋蔵文化財報告 中東遺跡第 6 地点 (4 次)・第 7 地点 発掘調査報告書

白岡市教育委員会

- ・白岡市埋蔵文化財調査報告書 第 25 集

蓮田市教育委員会

- ・蓮田市文化財調査報告書 第 55 集

蓮田市文化財展示館

- ・2015「最新収蔵品・出土品－蓮田のお宝 Vol. 3－」

越谷市教育委員会

- ・『大道遺跡発掘調査報告書Ⅰ』

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・館報 第 35 号
- ・企画展展示図録 戦国を生き抜いた武将たち

熊谷市教育委員会

- ・熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 池ノ上遺跡 第 21 集
- ・熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 樋ノ上遺跡Ⅱ 第 22 集
- ・熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 桜山遺跡Ⅱ 第 23 集
- ・熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 西別府祭祀遺跡Ⅳ 第 24 集
- ・熊谷市誕生 10 周年記念事業 熊谷市文化財ガイドブック

日本工業大学工業博物館

- ・工業技術博物館ニュース No. 92 ～ 96

戸田市立郷土博物館

- ・研究紀要 第 26 号
- ・埴輪が語る戸田市古墳時代
- ・戸田市立郷土博物館要覧
- ・市制施行 50 周年第 26 回企画展 写真帳 ～ 戸田市の歩み～

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第 9 号

- ・館報 第 11 号

- ・埼玉の古墳 一比企・入間一

川口市立科学館

- ・平成 27 年度 年報

さいたま市立博物館

- ・真福寺貝塚 一調査の軌跡一
- ・さいたまの酒造り
- ・平成 27 年度 さいたま市博物館年報

サトエ記念 21 世紀美術館

- ・吉岡正人展 ～永遠なる物語をつむぐ画家～

NPO 法人 野外調査研究所

- ・野外研叢書 7

行田市郷土博物館

- ・行田の足袋
- ・江戸湾沿岸警備と忍藩
- ・行田市郷土博物館 研究報告 第 8 集

宮代町郷土博物館

- ・平成 28 年度特別展 宮代町の指定文化財

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・平成 28 年度 大井郷土資料館特別展 人々のすがた ～土偶・埴輪・仏像・ひとがた～

久喜市立郷土資料館

- ・第 7 回特別展 社寺参詣と巡礼の旅 一久喜の信仰一

北本市教育委員会

- ・北本市埋蔵文化財調査報告書 元屋敷遺跡第 3 次調査 第 18 集
- ・北本市埋蔵文化財調査報告書 三五郎山遺跡 第 19 集
- ・北本市埋蔵文化財調査報告書 如意寺遺跡 第 20 集

三郷市立郷土資料館

- ・特別展図録 「三郷市の仏教と仏像」

入間市博物館

- ・文化財が語る入間の歴史

草加市立歴史民俗資料館

- ・日光道中と参勤交代 ―出羽久保田（秋田）藩を中心に―

鶴ヶ島市遺跡調査会

- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書 第77集「仲道柴山遺跡 第21次 発掘調査報告書」
- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書 第78集「岸田氏館 第2次 発掘調査報告書」

鶴ヶ島市教育委員会

- ・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ

神泉村教育委員会

- ・平西遺跡発掘調査報告書 第1集
- ・平西遺跡発掘調査報告書 ―F地点の調査― 村内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書 第2集
- ・村内遺跡発掘調査報告書 ―平遺跡G地点の調査及び村内遺跡試掘調査― 村内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書 第3集
- ・門野遺跡・中井遺跡・平西遺跡・松の平遺跡発掘調査報告書 ―県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 村内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書― 第4集

久喜市教育委員会

- ・「歴史資料でよむ久喜市ゆかりの人物ブックレット①中島撫山の生涯」
- ・「歴史資料でよむ久喜市ゆかりの人物ブックレット②静御前の伝承」
- ・「天王山北遺跡 久喜市埋蔵文化財調査報告書Ⅳ集」

〈千葉県〉

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館館報 第43号

千葉県立関宿城博物館

- ・研究報告 第20号・21号
- ・平成28年度 企画展 つながる 川と海と

人

千葉県立中央博物館

- ・妖怪と出会う夏 in chiba2015
- ・君津市市宿「星野家日記」

松戸市立博物館

- ・松戸市史 上巻（改訂版）原始・古代・中世

旭市教育委員会

- ・大原幽学記念館報告 第3号

岡田征弘

- ・妙蓮寺釈迦堂跡出土〔建武三季四月銘題目板碑〕

〈東京都〉

実践女子学園香雪記念資料館

- ・実践女子学園香雪記念資料館館報 第13号（2015年度）

公益財団法人 日本博物館協会

- ・安定化処理～大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト～（2015改訂版）
- ・博物館研究 Vol.51 No.5～Vol.52 No.4

八王子市市史編集専門部会自然部会

- ・新八王子市史自然調査報告書 八王子市動植物目録

八王子市史編纂委員会

- ・新八王子史 通史5 近現代（上）

東京家政学院生活文化博物館

- ・東京家政学院生活文化博物館年報 第23号
- ・2016 東京家政学院生活文化博物館 移管資料展（3）民族衣装ってポップ、刺繍

明治大学博物館

- ・明治大学博物館研究報告 第21号

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 渋沢資料館

- ・青淵 第806号5月号～第816号3月号
- ・渋沢研究 第29号

一般財団法人 全国科学博物館振興財団

- ・mil sil No.2 Vol.9～No.6 Vol.9

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「SHU」 No. 46
- ・玉川大学教育博物館 紀要 第13号

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第48刊 第1号 / 第48刊 第2号

陸前高田市被災資料デジタル化プロジェクト

- ・被災写真救済の手引き

東日本鉄道文化財団

- ・年次報告書 2015

國學院大學博物館

- ・「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業」成果報告書
- ・國學院大學博物館 研究報告

東京都江戸東京博物館

- ・東京都江戸東京博物館資料目録

東京都江戸東京博物館分館 江戸東京たてもの園

- ・江戸東京たてもの園考古資料一覧 ー旧武蔵野郷土館収蔵資料ー

駒澤大学禅文化歴史資料館

- ・「東皐心越と水戸光圀～黄門様が招いた異国の禅僧～」
- ・企画展「道教の世界」図録 駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵道教関係資料 2
- ・駒澤大学禅文化歴史博物館紀要 創刊号
- ・駒澤大学禅文化歴史博物館年次報告書

日本ユネスコ協会連盟

- ・世界遺産年報 2017 No. 22

明治大学校地内遺跡調査団

- ・東京都三鷹市・調布市 下原・富士見町遺跡Ⅲ 後期旧石器時代の発掘調査（1）石器群の概要と出土状況
- ・東京都三鷹市・調布市 下原・富士見町遺跡Ⅲ 後期旧石器時代の発掘調査（2）石器群の概要と出土状況

大田区立郷土博物館

- ・大田区立郷土博物館 紀要 第21号
- ・特別展「土器から見た大田区の弥生時代 ー久ヶ原遺跡発見、90年ー」図録

玉川大学教育博物館

- ・玉川大学教育博物館 館報 第14号
- ・田畑環状積石遺構

〈神奈川県〉

大磯町郷土資料館

- ・年報 ー平成26年度ー
- ・年報 ー平成27年度ー
- ・遺跡からみる 近代別荘地の形成と展開

横浜市歴史博物館

- ・称名寺貝塚
- ・称名寺貝塚と称名寺武士器

女子美術大学美術館

- ・女子美術大学美術館年報

三浦市教育委員会

- ・三浦市埋蔵文化財調査報告書第30集 市内遺跡発掘調査

〈新潟県〉

長岡市立科学博物館

- ・長岡市立科学博物館報（NKH） 第100号
- ・村山均氏寄贈貝類標本目録（陸産貝類）

〈富山県〉

（株）上智

- ・富山県中新川郡立山町 二ツ塚遺跡

〈山梨県〉

山梨県立考古博物館

- ・よみがえる武士の魂 ー鎌倉・平泉と甲斐源氏の武家文化ー

〈長野県〉

明治大学黒曜石研究センター

- ・明治大学黒曜石研究センター資料・報告集 1
- 長野県中部高地における先史時代人類誌 ― 広原遺跡群第 1 次～第 3 次調査報告書―
- ・更新世真末期のアムール川下流域における環境変動と人類行動 V01.2 ノヴォトロイツコエ 10 遺跡（2003 ― 2004 年）発掘調査報告書
- ・資源環境と人類 第 6 号・7 号
- ・明治大学黒曜石研究センターニューズレター 第 5 号・6 号

長野県埋蔵文化財センター

- ・長野県埋蔵文化センター発掘調査報告書 113 「浅川扇状地いせきぐん本村南沖遺跡」
- ・長野県埋蔵文化センター発掘調査報告書 116 「黒部遺跡 ニツ石前遺跡」
- ・長野県埋蔵文化財センター年報 33
- ・長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 114『龍源寺』

〈静岡県〉

東海大学海洋学部博物館

- ・東海大学海洋学部博物館年報

静岡市立登呂博物館

- ・登呂遺跡出土品重要文化財指定記念 特別展 弥生×登呂

浜松市博物館

- ・浜松市博物館特別展 遠江の木喰仏 図録

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館紀要 34 号・35 号

愛知大学 学芸員及び社会教育主事課程運営委員会

- ・博物館学芸員課程年報 第 21 号

豊橋市自然史博物館

- ・豊橋市自然史博物館年報 第 28 号

- ・「メガ恐竜展 in 豊橋」

〈滋賀県〉

高島歴史民俗資料館

- ・滋賀県高島市今津町 北仰・桂遺跡 第 26 集
- ・高島市文化財調査報告書 第 27 集

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館 館報 第 19 号

〈大阪府〉

茨木市教育委員会

- ・茨城に眠る資料・免山篤コレクションを中心に
- ・龍王山をめぐる信仰と人々・山岳寺院の軌跡
- ・茨木市立文化財資料館館報
- ・遺跡を探ろう！

- ・いばらきの歴史を探ろう！ 旧石器時代～弥生時代編

- ・いばらきの歴史を探ろう！ 古墳時代

- ・いばらきの歴史を探ろう！ 古代編

- ・いばらきの歴史を探ろう！ 中世編

- ・いばらきの歴史を探ろう！ 近世編

茨木市立文化財資料館

- ・絵図で楽しむ茨木―江戸時代の村を巡る― 展示図録

- ・「茨木市立文化財資料館報」 第 2 号

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

- ・関西圏大学ミュージアム連携活性化事業 / 交流する大学ミュージアムを目指して 事業実施報告書 大学の扉を開く

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館

- ・ 神々の宿る布 ―古代アンデスからのメッセージ―
- ・ アンデスの織物を観る ルーピング技法を中心に 公開研究会報告第1号
- ・ 第40回キリスト教美術展

〈鳥取県〉

鳥取県教育委員会

- ・ 常松菅田遺跡Ⅱ
- ・ 常松大谷遺跡Ⅱ
- ・ 高住宮ノ谷遺跡 第1分冊（本文編）
- ・ 高住宮ノ谷遺跡 第2分冊（写真図版編）
- ・ 一般国道9号線（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXV 大桺遺跡Ⅰ
- ・ 一般国道9号線（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXVI 大桺遺跡Ⅱ

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・ 山口大学構内遺跡調査研究年報XXI
- ・ 見島ジーコンボ古墳群代124号墳 潮待貝塚出土資料調査報告書 館蔵資料調査研究報告書5
- ・ 平成27年度山口県大学ML連携事業報告
- ・ 広報誌『てらこや埋分 第26号』
- ・ 山口大学埋蔵文化財資料館年報―平成24年度―

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・ 岡豊風日 第93号
- ・ 高知県立歴史民俗資料館年報 No.24
- ・ 高知県立歴史民俗資料館年報 平成27年度

〈福岡県〉

西南学院大学博物館

- ・ 西南学院大学博物館研究紀要 第4号
- ・ 西南学院大学博物館年報 第8号
- ・ 西南学院大学博物館研究叢書 異国と福岡

筑紫野市歴史博物館

- ・ 筑紫野市歴史博物館年報16

九州産業大学美術館

- ・ グラフィックデザイナー豊増秀男 かたち・時代・ユーモア
- ・ 平成26・27年度九州産業大学美術館年度報告書

〈熊本県〉

熊本大学五高記念館

- ・ 漱石生誕150年・没後100年・来熊120周年記念「五高と漱石」
- ・ 熊本大学五高記念館叢書第二集『第五高等学校における勤労奉仕・勤労動員』

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・ newsletter No.38
- ・ 鹿児島大学総合研究博物館年報 No.14
- ・ 「成川武士器ってなんだ？―鹿大キャンパスから出土する土器―」
- ・ 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 大隅大崎 神領10号墳の研究Ⅰ No.8

立正大学博物館年報 15

(平成 28 (2016) 年度)

平成 29 (2017) 年 4 月 30 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；望月印刷株式会社